



2020・2・11.

第 364 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

「緊急署名」手に対話と宣伝の輪大きく

《九条の会声明》
草の根からの「改憲発議許さず」の
声で安倍改憲に終止符を

2020年2月10日

安倍首相は、今年の年頭記者会見からことあるごとに改憲発言を繰り返しています。とくに施政方針演説では、自らの憲法尊重擁護義務を投げ捨てて、改憲案を示すのが「国会議員の責任」、「歴史的使命」などと強弁し、憲法審査会の活動への介入さえも口にして、その執念をあらわにしました。これは、この間の「戦争する国づくり」が9条改憲をいよいよ差し迫った課題としていることへの焦りの現れにほかなりません。

安倍内閣は、昨年末に防衛省設置法の「調査・研究」名目で自衛隊を中東地域に「派遣」する閣議決定を行い、1月11日にはP3C哨戒機、2月2日は護衛艦の中東地域への派兵を強行しました。その中東では、年明け早々にアメリカによるイラン司令官殺害とイランによる報復のミサイル攻撃がなされ、戦争を憂慮する国際世論により本格的な軍事衝突はひとまず回避されましたが、アメリカの「核合意」からの一方的離

脱に端を発する緊張状態が、依然続いています。今こそ日本政府には9条にもとづく平和的外交努力が求められています。

ところが、安倍内閣は、中東危機に乗じて9条破壊の既成事実を拡大するために自衛隊派兵に踏み切りました。この自衛隊の活動は、アメリカが呼びかける「有志連合」に直接参加しないものの、米軍などとの必要な意思疎通や連携を行うことで、その軍事行動に事実上加担するものです。

安倍首相が執念を燃やす憲法9条に自衛隊を明記する改憲の狙いは、こうした自衛隊派兵を追認するだけでなく、自衛隊が堂々と米軍とともに海外で戦争できるようにすることです。改憲勢力は、「災害」を口実にした緊急事態条項や教育の充実など、様々な手口で改憲の糸口をつかもうと躍起になってくるでしょうが、本命は9条改憲であることを国民の中に広めていくことが求められています。

安倍首相が固執する9条改憲は、その思惑通り進んでいるわけではありません。昨年の参院選では改憲勢力が改憲案発議に必要な3分の2の議席を得られず、自民党が

2018年3月にまとめた改憲案の提示も、4回の国会連続でできませんでした。これは、九条の会も加わる「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」など、市民と野党の共同した取り組みの重要な成果です。これに対して自民党は、草の根からの改憲運動を作り出そうと、昨秋から必死に画策しています。

草の根からの活動は、私たち九条の会が最も大切にし、かつ得意とするところです。今年の年頭からスタートした「安倍9条改憲NO！改憲発議に反対する全国緊急署名」を大いに広げるとともに、集会、スタンディング、ネットでの配信、など草の根からの対話と宣伝をさらに幅広く大きなものにして、今年こそ安倍9条改憲に終止符をうちましょう。

中東派兵に抗議し緊急集会

【石川県／九条の会・石川ネット他】 九条の会・石川ネットや石川県労連などでつくる『憲法改憲阻止！戦争法廃止！を呼びかける八団体』は2日、海上自衛隊の護衛艦「たかなみ」の中東への出港に対し、金沢市内で自衛隊の中東派兵に抗議する緊急集会を開催しました。200人以上の参加で会場はいっぱい、熱気に包まれました。集会後にデモ行進しました。

主催者を代表して、県憲法を守る会の岩淵正明代表（弁護士）があいさつ。中東への自衛隊派兵に対し「必要がない。法律に違反している。国会討論もされていない。自衛隊の派兵に断固反対」と述べました。

平和運動センターの橘広行共同代表、戦争をさせない石川の会の須藤春夫事務局長、

自民党女性局パンフは同性婚支持

自民党女性局がパンフ『幸せのカタチー私たちの憲法』を発行しました。もちろん女性の中に改憲論を広めることが狙いですが、「幸せのカタチは時代によって変わっていく」「日本憲法は？ 約70年間、1回も改正していない」とソフトなタッチで改憲に迫っています。

ところが、中味は衣食住、教育、環境などについての各国憲法のすぐれた規定を紹介しているだけ。ウツカリすると「だからこれらも含む日本の憲法をもっといかしましょう」との提起と勘違いしかねません。改憲論の展開は自民党の改憲4項目を羅列している部分だけ。

注目すべきは、同性婚容認のアイランド憲法を紹介し、ほめたたえていること。安倍首相はわざわざ憲法24条をもちだしその容認を拒否しましたが、このパンフの規定をどうみているのでしょうか。

憲法会議の佐藤正幸代表委員が決意表明。

参加者は、自衛隊の中東派兵に反対し、閣議決定した安倍内閣の退陣を求める緊急集会アピールを、全員の拍手で確認。

デモ行進は、「自衛隊の中東・アラビア海派遣反対」の横断幕を先頭に「自衛隊を中東に送るな」「憲法改悪反対」とコールしてパレードし商店街や通行人にアピールしました。店の中から両手を大きく振って激励する女性の姿がありました。

安倍信任を問うシール投票実施

【広島県／第九条の会ヒロシマの女性】 憲法9条改憲を急ぎ、自衛隊を中東に派遣、

日韓関係、自衛隊「日報」隠し、沖縄・辺野古新基地建設など人権を無視し、平和主義・民主主義を壊し続ける安倍政権です。モリカケ問題、桜を見る会など様々な疑惑があるにもかかわらず、政権支持率はなぜか下がりません。安倍政権の是非を市民に聞いて、考えてほしいと思い、新春早々の1月3日、広島市内の元安橋でシール投票を行いました。

広島の女性たち約30人が集まり13時半から1時間、大きなシール投票版と、持って移動できる小さな版を2枚持って投票を呼びかけました。人通りは多くはなく、外国人観光者も多かったのですが、303人の方が投票してくれました。

結果は、▽辞めてほしい199人▽辞めなくてよい44人▽わからない59人。圧倒的に「安倍辞めて」が多くてほっとしました。

(第九条の会ヒロシマ・藤井純子

「広島マスコミ九条の会」No85)

「力になりたい」と若者が署名

【宮城県／九条の会連絡会】 宮城県内九条の会連絡会は4日「安倍9条改憲NO!、改憲発議に反対する全国緊急署名」を仙台市の繁華街でよびかけました。

「授業で先生から、憲法9条をどう思うかと質問されたことがある」と語り署名したのは高校3年生の女子2人。一人は「軍事費じゃなくて教育予算にもっと力を入れてほしい」、もう一人は「戦争が怖い。日常が奪われるのは嫌。(署名で)少しでも力になりたい」と真剣な表情でした。

戦争体験者の佐々木久美子さん(83)は「あなたたちの世代が危ないんです」と若

者に積極的に声をかけ、高校1年の男子は「世の中のためになりたい」と応じました。

中高年の人は9条改憲に危機感を示し署名。福島市から来ていた社員の男性(43)は「右傾化する自民党、それを維新が後押ししていることも怖い」と言い、外国人に日本語を教える塾講師の男性(80)は「本当に9条が変えられてしまうのではないかと不安です」と話していました。

署名が改憲阻止の力と戸別訪問

【群馬県／九条の会・群馬ネットワーク】

12月23日、九条の会・群馬ネットワークが開いた「憲法講演会」には51名が参加。赤石あゆ子弁護士が「改憲を断念させる闘いと展望」と題して講演しました。講演後、発言がおこなわれ、そこで宝泉九条の会の竹中章夫さんが署名活動を紹介しました。

「2006年から戸別訪問署名を開始し、現在5000筆弱になっているが、2018年1月より3000万署名にきりかえ26回の行動で1038筆集めている。行動参加者は当初8人前後、現在は4人になった。署名の継続について議論もあったが、改憲阻止のため、ほかにどんな方法があるか、やはり3000万人署名だろうと高齢者もふくめて頑張っている。太田市全体で1万筆余の署名を集めているが、県内の署名到達点がわかると励みになる。(「かいがや9条の会だより」No151)

恵庭、長沼の教訓を学びあう

【青森市／九条の会連絡センター】青森市九条の会連絡センターは1日、青森市で市内の各九条の会から19人が集まり、交流会を開きました。

門倉昇代表は、安倍首相が衆院予算委員会で「自衛隊を憲法に明記しその正当性を確定することこそ安全保障防衛の根幹」と発言したことを批判し、新署名を集め、運動を広げて安倍改憲を阻止しようとあいさつ。「恵庭、長沼から学ぶ憲法9条を守るたたかい」のDVDを全員で見て、「憲法九条から自衛隊を問う」というテーマで意見を出し合いました。

「平和的生存権」を初めて知ったという人もあり、助言者の金沢茂弁護士が「平和のうちに生活する権利」だから基本的人権にすべきと話しました、恵庭事件では教え子の高校生が自衛隊で体験したことを詳しく話した元校長もいて、安倍改憲阻止の運動を広げていこうと確認しました。

生きがいと憲法のリーフ配布

【東京都江戸川区／江戸川私学九条の会他】 江戸川私学九条の会と戦争をさせない江戸川の会は、若者に「働きがい、生きがいを持たせる社会を」と、憲法についてのリーフ「青年の荒野Ⅱ」を作成。1月13日の成人式に午前19名、午後12名参加し、皆さんへのメッセージですと配布。「『青年の荒野Ⅱ』ですか、読みます」と、1300部のリーフ全てを配布。11月からの高校生への配布では7校で700部。働きかけることで青年は変化するとの思いを強くしました。（「東京革新懇ニュース」2月5日）

自衛隊を憲法に明記すれば…

【岐阜県／岐阜・九条の会/】 岐阜・九条の会は1月29日、名鉄岐阜駅前で274回目の「9の日」行動に取り組み、「安倍9

条改憲を許さず改憲発議に反対する緊急署名」を呼びかけました。

世話人の林邦男さんがマイクを握り、安倍政権のウソとごまかし、腐敗政治を批判し、「憲法9条に自衛隊を明記することは、自衛隊を海外で米軍とともに戦争に参加できるようにすることです。安倍政権が進める憲法改定に反対し、日本の民主主義を壊す安倍政権を一刻も早く退陣させましょう」と訴えました。

代表世話人の吉田千秋さんらが「戦争反対」「安倍改憲NO」と書いたパネルをぶら下げ、「憲法を生かす署名にご協力ください」と書いた横断幕とのぼり旗を掲げ、改憲反対の署名を訴えるビラを配布しました。

通りかかった親子の女性は「改憲反対です」とビラを受け取りました。

野党代表がリレートーク

【香川県／県9条の会、革新懇】 県の9条の会かがわと香川革新懇は6日、安倍内閣退陣を求めて高松市の商店街をデモ行進しました。46人が参加。

行進前の集会では、立憲民主党の富野和憲県連代表、国民民主党の山本悟史県連幹事長、日本共産党の白川よう子衆院四国ブロック比例候補、社民党の吉峰幸夫県連副幹事長、新社会党の井角操県本部委員長がリレートークし、「桜を見る会」や総選挙に向けた野党共闘、自衛隊の中東派兵問題などを訴えました。

参加した女性（34）は「野党は『桜を見る会』など安倍政権の疑惑を追及してほしい。安倍政権は信頼できない」と話しました。